

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立北筑高等学校

自己評価						学校関係者評価		
学校運営計画(4月)					評価(総合)		自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
学校運営方針	「現代に生きる 逞しい人間の育成」—健やかに 自律 協力して 創造— 自ら課題を発見(設定)し、他と協働して、人から指図されなくても、その解決に計画的に取り組む(主体的)若人を育成する。							
昨年度の成果と課題	今年度重点目標	具体的目標						
昭和53年の開校以来、本校では、「現代に生きる逞しい人間の育成」を学校教育目標として掲げ、学校生活の様々な場面において、生徒と教師との信頼関係に基づく最後まで諦めさせない粘り強い指導と厳しい指導の実践により、生徒に「北筑生」としての自信と誇りを育み、希望進路を実現できる学校として、1万5千を超える卒業生を社会に輩出してきた。創立50周年に向け、これまで築き上げてきた「鍛える学校北筑」としての歴史と伝統を継承し、生徒、保護者、そして地域社会から信頼される学校づくりを推進する。そして、複雑で予見困難な時代だからこそ、時代の変化を前向きに受け止め、自分や社会の在り方を見つめながら、持続可能な社会の創り手として、自ら課題を設定し、他と協働して、その解決に計画的に取り組む人材育成に努める。	1 「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを全ての教育活動の基盤とし、新時代の到来の中で「本校のよき学校文化」を意図的に継承する。 2 在校生や中学生、その保護者から(そして本校に勤務する職員からも)信頼され、選ばれる学校であり続ける努力を職員一丸となって行う。	①北筑高校は「鍛える学校」であること						
		②「本校のよき学校文化」とは日常の高校生活全般を通じて生徒に望ましい人格の形成が図られ、社会に貢献できる人材となる為の基礎・基本が培われていること						
		③継承は「意図的な取り組み」が必要不可欠であること						
		④社会に貢献できる人材育成のための本校最大のミッションは「生徒の希望進路実現」であること						
		①本校の存在感や存在意義を高めること						
		②学習指導要領の改訂、ICT教育の普及、コロナ禍などの影響で中学生や保護者の意識や考え方が大きく変化している現状を認識し、それに対して意図的に対応すること						
		③「実績向上」と「情報共有」により信頼を高めること						
		④生徒や職員一人一人の健康や幸福を保ち、学校全体の教育活動の成果達成を目指すこと						
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価(3月)	次年度の主な課題		
教務領域課	教育指導班	3観点の成績評価法に基づいて適切な評価を行い、生徒の学習状況改善に役立てる						
		各教科で、生徒の学習改善に効果的な、教科の独自性を生かした各観点の評価方法を工夫・研究し、教科で共有する						
		考査の採点において、自動採点ソフトを積極的に活用し、採点効率を上げる等評価の基本データを効率的に揃える手立てを工夫する						
		家庭学習について、生徒が主体的に取り組むよう各教科や各学年の工夫を促す						
	企画・広報班	学校行事の円滑な実施						
		学校行事の円滑な実施						
		福利厚生に関することを事務と連携しながら推進する						
		PTA・同窓会との連携強化	PTA役員との連携を深め、委員会活動の活性化に努める					
			PTA役員会、理事会、総会等の準備を確実に進行					
		同窓会役員との連絡を密にとり、連携を深める						
		教育活動の積極的な広報	本校の教育活動に関する内容を発信し、本校への理解、信頼を深める					
			ホームページやツイッターを効果的に利用し、適時、本校の教育活動を広報する					
奨学金関係について								
奨学金関係について								
担任と連携を取りながら、奨学金希望者の把握に努める								
生徒指導領域課	生徒指導班	挨拶や時間厳守など、規範意識向上について自ら考え行動できるようにする						
		本校の良き伝統を引き継ぎ、次世代の社会人としてふさわしい身だしなみを考え、整える習慣を定着させる						
		交通社会の一員として道路交通法を守り、日頃の声かけだけでなく登下校指導をPTAと連携して行うことで、交通安全意識向上を図る						
	アンケートの実施や面談週間を利用し、生徒が相談しやすい職員環境を醸成する							
	アンケート実施後の迅速な聴き取りを行い、生徒が安心して相談できるように、日頃からの声かけや生徒の動態を把握する							
	教職員で生徒情報やHR・部活動での人間関係を把握できるように、常に情報共有を行いやすい職場環境を維持する							
保健・環境班	感染症予防を生活の一部として捉え、自らの健康を日常的に管理できる生徒を育成する							
	日常生活全般で手指消毒、換気等の感染防止対策を実施するとともに、エチケットやマナーなど周囲に配慮した行動を習慣付ける							
	月1回の保健便り発行など、保健委員会の啓発活動を通じて生徒一人一人が健康を考えた行動選択ができるようにする							
清掃活動や環境整備を徹底し、来校者に喜ばれる学校美化を目指す								
整美委員会の活動を通じ、校内美化の取り組みを活性化させ、美しい学校、来校者に喜ばれる学校を目指す								
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見							

進路指導領域課	ガイダンス班	第一希望進路実現に向けた学力養成のための指導の確立	国公立大学100名以上、難関大学10名以上の合格を目標に、スタディーワークショップなどの課外・補講を実施し、入試に対応できる学力を養成する						
		主体的に進路を切り拓く姿勢・能力の育成	各教科と連携して、外部模試の結果についての評価・反省、および次に向けての事前指導・事後指導を充実させる						
	キャリアデザイン班	課題発見・解決能力と思考力表現力の育成	進路HRや講演会を通じて、生徒へ最新の入試情報を提供し、志(将来のビジョン)を持って主体的に進路を切り拓く力の育成を図る						
		見通しを持って自律的に学習する態度の育成	進路説明会や進路希望調査を実施し、個人面談や保護者会を通して適切な進路指導を推進する						
指導力向上領域課	研修班	授業改善の取り組み	「総合的な探究の時間 -北筑C ⁵ プラン-						
		職員研修の充実	「総合的な探究の時間 -北筑C ⁵ プラン-						
	情報教育班	ICT機器を活用した指導のさらなる促進および機器の点検・管理の徹底	常時授業を開放して授業参観を行い互いにスキルアップを図ると共に、ICTを効果的に活用した授業の在り方についての研修の充実を図る						
			授業アンケートの結果をふまえて、適切な授業改善方法を提示する。その際、評価の在り方についても研究し、授業の質の向上を図る						
			ICTの活用に関する研修を各学期に実施し、効果的な活用方法の研究と情報共有を図る						
			各分掌や学年と連携し、必要な時期に適切な研修が行えるように計画を立てる						
	図書・文化班	図書利用の促進	ICT機器やICT教材を活用し、主体的・対話的で深い学びをより推進する						
			ICT機器の適切な管理・点検およびその運用をきちんと行う						
			1人1台タブレット端末を活かした新たな授業スタイルを構築できるようにする						
			グーグルのClassroomを積極的に活用し、連絡の徹底や学習時間の確保などを図る						
	図書・文化班	図書委員会による読書活動の推進	ホームページやSNSを効果的に活用し、本校の教育活動をタイムリーに報告することができるようにする						
			教員・生徒のリクエストを取り入れながら、蔵書を充実させる						
新刊案内や図書館報を発行し、生徒の図書館利用を促す									
教科や小論文に関する図書を充実させ、学習面での利用を促す									
英語科	学力と進路実現の保障	図書委員や職員からのお薦めの本を紹介し、読書への興味・関心を持たせる							
		図書委員の働きかけにより積極的な図書館利用を促し、読書を習慣化させる							
	英語科行事の継承	読書週間、ミニビブリオバトルを実施し、生徒に読書の楽しみを実感させる							
		図書委員や職員からのお薦めの本を紹介し、読書への興味・関心を持たせる							
	広報活動の充実	読書委員会による読書活動の推進							
		読書委員会による読書活動の推進							
1学年	基本的な生活習慣の確立	生徒との個人面談年3回以上は行い、進路実績を上げる(国公立大15名以上)							
	学習習慣の確立	実用英語検定の合格者を1年準2級20名以上、2年2級25名以上、3年準1級5名以上、2級30名を達成する							
		予習・授業・復習のサイクルを確立させ、自己実現に必要な学力の基礎を固める							
2学年	主体的学習習慣の確立	家庭学習の課題を工夫し、週1000分の家庭学習時間を確保する							
		学校行事に積極的に参加させ、個人と集団の成長を図る							
2学年	学校生活における自律の実践	個人面談を各学期に1回以上実施し、生徒の状況把握に努め、教員間で情報の共有を図る							
		学習への取組状況を把握し、個に応じた的確な助言を行うことで、生徒の学習習慣の改善を図る							
	学校生活の充実とサポート	外部模試後に活用データを提示することで、生徒が自主的・継続的に復習に取り組めるような体制作りを行う							
2学年	学校生活の充実とサポート	考査前に学習計画を立て、その取組状況を可視化することで、目標達成には計画的な取組が必要であることを実感させる							
		全職員の共通意識のもと、各ホームルーム、授業、学年集会等において、生徒が自身の行動を振り返りきつかけとなるような講話を行う							
	個人面談を各学期に1回以上実施する。各種アンケートや保健室利用記録を活用し、生徒の心の不調にいち早く気づける体制を整える								

3学年	北筑高校の最上級生としての自覚と誇りの涵養	「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底し、下級生に北筑生としての範を示すことができるように、HRや学年集会で意識喚起・啓発を行う					
		生徒会執行部や学年リーダーが主体的に行動し、生徒集団を統率し、他と協働する喜びを実感させる					
		身の回りの整理や掃除に取り組むことで、生活指導を基盤とした「北筑生」らしさを追求させる					
	学校生活の充実とサポート	学校行事を通して、他者への配慮や周囲への感謝の気持ちを持たせ、個人と集団の成長を図る					
		各種アンケートから生徒の状況を的確に把握し、生徒の課題に対して速やかに対応する					
		生徒一人一人に応じた高い目標を持たせ、その実現のために「すべきこと」に気づかせ実践させることで、進路実現を達成させる					
進路目標実現のサポート	模擬試験毎に目標を設定させ、振り返りを重点的に取り組ませる						
	自学自習の環境を整え、主体的な学習を促し、多様な入試に対応できるようにする						
特別支援教育委員会	生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導及び必要な支援を行う	生徒の特性や配慮事項について、情報共有・共通理解を図る(生徒情報交換会の実施と有効活用)					
		合理的配慮に関する理解・手立てについて、専門家から指導助言を受けることができる機会を設ける(職員研修等の実施)					
		不登校傾向生徒の早期発見に努め、SSW、SCと連携した心のケアとサポートを行う					
人権教育推進委員会	福岡県人権推進プランに基づいた全教科全領域での人権教育推進体制の構築	校内での人権学習において同和問題をはじめとする人権問題を取り上げ、教職員自身の人権感覚を向上させる					
		県教委の実施する人権教育研修会等に学年毎に計画的に参加するように促すとともに、校内研修を充実させる					
		PTA国際人権委員会と連携し、PTAの人権研修会を教職員の研修の場としても活用する					
事務部	法規等に基づき本校教育目標に即した事務処理に努めるとともに、効率的で、効果的な予算執行を目指し、特色ある教育環境整備の充実を図る	予算の効率的執行に努め、厳しい財政状況の中でも、教育活動を活性化させるため、物品等の購入を今後も効果的に行う					
		効果的な安全管理・環境整備の実現に向け、職員間で情報共有を行い、予算獲得をはじめ、速やかな対応ができるように努める					
		収入・学事・人件費事務領域業務の適法・適正な執行に努める					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
--

評価項目以外のものに関する意見

--